民研部会から

家庭科部会

子どもたちの生活から出発する自由な学びを！

海野りつ子

コロナ禍以降、オンラインで部会や研究会を開いています。また、おたより「イキイキ ワクワク」で情報を発信。多忙な現場の先生方に参加してもらいたいと、対応を模索中。ご参加お待ちしています。

採択年に当たり小学校の新教科書の特徴について学習会を行いました。子どもたちに生活を見つめ、考えさせようとしている教科書かが、大きなポイントです。

現代的な課題も盛り込まれたものの、現行と同様に指導要領・同解説に忠実な内容。それが、子どもたちの学びの可能性を制約しています。しかし、丁寧に読むと、教科書会社の編集の工夫もあり、そこに依拠して授業内容を広げていく可能性も見えてきます。以下、特徴と問題点です。

①学習指導要領・解説、教科書検定制度が自由な学びを阻害している（例―課題解決学習は、家族・家庭領域に限定される）。

②「生活の見方・考え方」の強調と型にはまった「学習の進め方」―ＰＤＣＡサイクル。解決できるものしか課題にならない。

③「協力」「○○の一員」「感謝」家族・家庭領域は実践版道徳？

伝統文化の記述は更に増加。

④「持続可能な社会」と「ＳＤＧｓ」関連のページが増える。自然環境には触れるが、人権尊重に係る目標（ジェンダー平等など）や「つくる責任」の記述は皆無。

⑤デジタルコンテンツの多用、ＩＣＴ化。

⑥ジェンダーや多様性を意識。他国籍の人や車椅子の人の図や写真が入る。

⑦食物アレルギーについての記述増える。

⑧防災についての記述増える。

⑨人工科学物質についての学び―食品添加物の記述はＫ社のみ。洗剤の種類（石けんと合成洗剤）記述はＴ社のみ。

（共同研究者）

『東京民研　家庭科部会』2023.7/ 5

＜東京教研からのテーマ＞

つながる、支え合う、学び合う ~いま改めて求められる学校本来の役割と教育の自由

◆来年度から変わる

―小学校教科書―

＊ 採択に向けての各地域での展示
展示場に行って、手にとってみて、率直な感想や意見を書きたいものです。

・子どもと教科書全国ネット 21
「2024 小学校教科書ミニリーフ.pdf」あります
※

※「2024 小学校教科書ミニリーフ.pdf」から拾う

・ページ数が「過去最大」を更新　・週６日制の時と同じ時間数の授業を週５日で。
・学習内容が難しい。　・多様性の包摂、ジェンダー平等、LGBTQ　・ネットリテラシー、いじめ問題、戦争と平和　・全ての教科書に二次元コード

◎授業の流れと内容を細かく指示

◎道徳の教科書は、どう変わった？
・「国や郷土を愛する態度」を強調　・「徳目」の押し付け　・６社中４社が１時間ずつ「自己評価」　・他の教科でも自己評価・心や態度

家庭・採択にかかる教科書
前回の採択・・・5、６年　東書、開隆堂・・・２社
今回の採択・・・5、６年　東書、開隆堂・・・２社

展示会の予定
・各採択区における見本本の展示
法定展示期間・・６月１４日から７月３１日の間で都道府県教育委員会が定める１４日間
（東京都における）特別展示期間・・法定展示期間の前 10 日間

♥ ６月の民研オンラインカフェ・・・　6/14『家庭科ってどんな教科？』・・実践二本紹介・・「子どもの権利条約を学ぶ」「トイレの問題は人権」家庭科は、生活全般に関わり、人権問題は切り離せない・・・どうだったのでしょう？　「民研オンラインカフェーが「様々な教科の交流の場となることを願うものです」悩みが＝「実習後の流しのコーナーに食べ物のゴミ。誰がどうする？」＝「当然、後片付けまで授業」「教師間のルールの話し合いが持てるといいですね」＝時間に追われる、子ども達・教師の姿が！！！
（次号発行予定８月初め　情報を待っています！　発行責任者澤田）